第2節　小串構内の立会調査

1　医学部看護婦宿舎改修に伴う立会調査

調査地区　　医学部構内　看護婦宿舎地域

調査期間　　昭和60年12月3日

調査方法　　工事施工時における立会調査

調査面積　　約20㎡

調査結果　　工事は第5章で述べた看護婦宿舎改修に付随するもので、その内容は看護婦宿舎の北側を中心とした地域に、東西にガス管、給排水管および排水桝を新規に埋設するものである。

工事による掘削深度は現地表面から前二者は約60㎝、後者は約80㎝であり、昭和58年度に実施した体育館新営に伴う試掘調査で検出された遺物包含層には達しない工事掘削規模である。しかし、同宿舎の所在するキャンパス北東端部ではこれまで埋蔵文化財に関する調査が全く行なわれておらず、その地下の状況および上記の遺物包含層の分布範囲が不明のままであった。このため、工事内容、規模等を勘案し、試掘調査に先だって事前に立会調査を実施したものである。

調査の結果、現地表面から約80㎝掘削した段階でも、構内造成等による近年の置土（攪乱土）の堆積が認められたにとどまり、遺物包含層は検出されなかった。

したがって、当該地域における地下の状況は後日予定されている同宿舎建物部分の改修時に観察することとした。

（河　村）

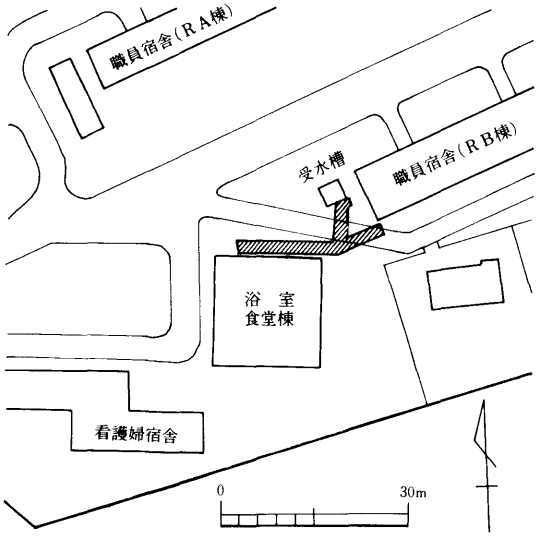

Fig. 44　調査区位置図

2　医学部環境整備に伴う立会調査

調査地区　　医学部構内　職員宿舎北・東地域

調査期間　　昭和60年１月14日

調査方法　　工事施工時における立会調査

調査面積　　約40m²

調査結果　　工事内容は職員宿舎の南東端部および北縁部に沿ってスギ、クス、カイズカイブキ等54本を植樹するものであった。植樹に伴う掘削深度は現地表から約50～70cmで、前者では二箇所、後者では四箇所を選定して地下の状況を観察した。

南東端部では、約60cm掘り下げたが、職員宿舎造成時の化粧土である真砂土の堆積が見られたにとどまった。

北縁部では、現地表から東半部で約50cm、西半部で約60～70cmの掘削を行なった。東半部では南東端部同様、工事基底面まで真砂土の堆積が見られ、顕著な遺構、遺物は認められなかった。また、西半部では現地表から約30～50cmまで真砂土の堆積が見られ、その下位に近～現代の土器を含む暗青灰色粘質土が堆積する。職員宿舎北側では、幅約1.8mの道路を隔てて幅約1.5mの小河川が東から西に向かって流れており、暗青灰色粘質土は改修以前のこの小河川の埋積土である可能性がある。

いずれにしても、現地表下70cm前後の掘削では攪乱土ないしは新しい時期の堆積土が検出されるのみで、顕著な埋蔵文化財は認められず、地下の状況を把握するまでにはいたらなかった。

（河　村）

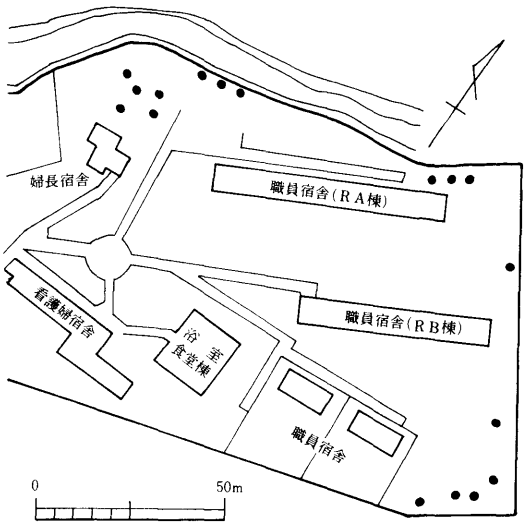

Fig. 45　調査区位置図